

平成28年度第1回境港市総合教育会議  
会議録

平成28年11月7日



求書を提出することになります。このことについて、委員の皆様から積極的なご意見を賜り、より濃密なものにして予算要求をするということにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局の方から概算要求について説明してください。

※教育委員会事務局長が資料に基づき説明

中村市長

ただいま概算要求について説明がありましたけれども、この概算要求については、財政サイドの方で更に熟度を高めること、それから財源の確保であるとか、そして施設等については中期的な計画をきちっと立てること、そういった指示がなされたところでもありますけれども、委員の皆様方からこの点についてご意見等ございましたら発言を願いたいと思います。

酒井委員

A L Tについてです。英語教育を充実していくという本市の方針にとりましては、A L Tの配置というのは必須だと思います。ぜひ予算措置をお願いしたいと思います。中学校だけではなく、やっぱり小学校でもA L Tは必要ではないかと思っております。できればこのインタラック委託によります指導力の高いA L Tを各中学校区に配置していただければとてもありがたいと思っております。

中村市長

このインタラック委託の予算額の内容はどうなっているのか。

学校教育課長

これ1名、1年間の委託料でございます。

中村市長

1名だけですね。今委員さんからは、各中学校区に1名配置という話がありましたが。

酒井委員

平成32年度から新学習指導要領になりまして、小学校も5、6年生に英語が教科として、3、4年生に外国語活動が入ってくるようですし、境港の子どもとして、英語を大事にしていくためには小学校でもA L Tが必要であると思っております。

中村市長

英語教育に力を入れるというのは教育委員会の方針にも挙がっているのですが、現在の取り組みを改めて報告してください。

学校教育課長

現在、本市が雇用しているのが1名でございます。それからインタラックからのALTが第三中学校に1名です。他にあと2名、ALTがおりますけれども、これは県の英語推進室がモデル事業として、3年間という限定で外江小に1名、それから二中に1名、配置していただいておりますが、これは事業がいつ終わるかわからないですし、また県の事業も変わってまいりますので、継続的に今いるALTが配置されることは中々確約ができないので、いずれALTの数は今より減る可能性はございます。何とか色々なモデル事業等も我々も県と話をして入れて行こうと思いますが、それでもやはりもうちょっと充実した配置は将来的には必要になってくる可能性はあると思われま

中村市長

小学生を対象にした取り組みはありますか。

学校教育課長

一中校区にいるALTは、中学校と小学校を持ち回りしております。それから外江小に配置されているALTは、外江小、渡小、中浜小を回っています。二中にいるALTは二中と誠道小と余子小という具合に、大体3校ぐらいを週5日の中で回っていると、恐らく小学校は週に1日ぐらいしか結局ALTが行ける日がないというのが現状でして、中々いつも小学校でALTがたくさん係わってという状況ではないところであります。

中村市長

インタラック委託というのはどう違ってくるのですか。

学校教育課長

インタラックという会社が雇用したALTを派遣するということとして、事前に採用するときに面接をして、英語助手としてふさわしい方を採用されます。それで配置するまでに3、4回の研修をして、事前に英語学習の基礎となるものを研修して学校に派遣してきます。ですから、ある程度学習を委ねることができる者がALTとして配置されてきます。実際に私も三中に行ってきましたが、かなり自分でプログラムを進められる活動を展開している様子でございました。

中村市長

私が度々聞くのは、ALTも当たり外れがある。本当に言葉が悪いのですが物見遊山のような感じで来られる人もあるということを知っているものですから、こういったインタラックでしっかりした人を採用して派遣してもらおうと随分違いますね。

教委事務局長

J E Tで来ると、当然質はさっき市長が言われたように多分あります。J E Tの場合は交付税措置がつくので、市の一般財源の持ち出しはほとんどないですが、このインタラックについては、質は高いですが一般財源から言うと補助がない、交付税措置がないという状況です。

中村市長

このことについて、これまで教育委員会から県に対する要望であるとか、問題点の指摘とかは出たことがない。市町村の現場のそういうことを、問題があるのだったら出さないといけない。いい人に来てもらって、いい成果を出さないといけない。

教委事務局長

全国的な要望があったかもしれませんが、今年度からJ E Tに限らず、インタラックからの派遣についても交付税措置が一部できるようになりました。しかし、条件がありまして、姉妹都市提携等している、交流しているところからのA L Tだと交付税措置の対象になるなど、多少制度が変わってきております。

中村市長

酒井委員から潤沢にそういった者を配置して、子どもの英語教育を底上げするということはもったものことですが、中々そこまでの一般財源を投入するというのは難しいところがあるわけですので、そういった県に対する要望をきちっとしないといけない。あるいは国に対する要望を。努めて人員は配置するように、予算全体を見ながら考えてみたいと思いますけれども、厳しい財源の中、やりくりしないといけませんから。

その他に何かありますでしょうか。

赤石委員

私の方からは、学校業務支援システム導入事業について、先般新聞でも非常に話題になり、先般の教育委員会の会議でも発言させていただいたのですが、これを導入することによって非常に先生方の負担が減るのではないかと聞いております。新聞に電通で過重の労働時間があって、それで追いつめられて自殺されたということがありました。実際、学校の先生方も毎日7時、8時とか遅くまで、まして期末とかについては非常に負担が増えており、実際先生の希望者というのが年々、そういうこともあってか、非常に減っているということも聞きますので、こういうシステムを導入することによって少しでも事務の負担が減ることができれば、先生方も非常に喜ばれるので

はないかと思imasuので、システムについて十分に勉強はして  
おりませんけれども、もし教育委員会の方で色々研究されて、  
学校の事務の負担が減るということになればよいと思っております。  
結果はすぐには出ないかもしれませんが、現状をとまかく  
変えないといけないのではないかと思imasuので、よろしく  
お願いします。

中村市長

このシステムの内容を説明してください。どういった支援がな  
されるのですか。

学校教育課長

学校業務支援システムにつきましては、県全体で統一したものを  
県が導入しようということで、昨年から話が進められている  
ところです。今、学校業務支援システムの分科会の方でも県で  
何回も部会が開かれて、説明会等もございました。それから8  
月には実際にそのシステムを先生方に触ってもらうというこ  
とで、産業体育館で企業に来てもらって、何者かでそのシ  
ステムを触ってみた、実際にやってみたということの勉強会も  
ございました。名簿管理、成績管理、それから出席簿の管理、  
そういうものを一元に取り扱って、全てのデータがリンクす  
ようになります。それから今グループウェアとって、教育委員  
会や先生同士、他の学校同士のメールのやり取りとか、そう  
いうものも全部一元でできるようになります。例えば市でや  
っているサイボウズのような感じのものが全部の学校、教育  
委員会と繋がるようになります。そうすると非常に連絡取る  
のも、文書のやり取りなども全部データでできますので、非  
常にスピーディーなやり取りができることになります。他の  
自治体で試験的にやっているところでは、大体、年間200時  
間くらい、時間を減らすことができたというような調査も出  
ていますので、子どもに直接触れる時間を作り出すという意  
味でも大変いいシステムということで、県も進めていると  
ころでございます。

中村市長

これは県費負担もあるのですか。また国費についてもある  
のですか。

学校教育課長

初期のインシヤルコストの1/2は県が出してくれます。運  
用のランニングコストについては、市町村が負担となります  
が、これは県も予算措置はしております。国費はございませ  
ん。

谷田委員

私は個別の事業というより、英語教育、それからIT教育全般についてです。私、日頃民間で仕事をさせてもらっていて、ここ近年特に感じるのは、グローバル化とIT化がものすごいスピードで仕事の方に入ってきておりまして、この対応をしっかりと取っていかないとやっていけないというところがあります。今後益々この流れは進んでいくと思っております、今の児童が将来大人になってそういった社会に出て行ったときにしっかりとグローバル化、IT化に対応できるような教育をしっかりとやっていかないと、今からやっておかないといけないと思っております、そういった意味では先ほどのALTの配置事業もそうですが、こういった英語教育、IT教育についての予算というのはしっかりとつけていただいて、対応を取っていただけたらと思っております。

中村市長

今、谷田委員から質問がありましたけれど、小学校ICT関連機器整備事業がありますが、この外国語活動用のスピーカー内蔵ディスプレイの整備について、財政サイドでは、週1時間の授業で、5、6年生の各教室全部に配置するのはどうかという指摘を受けていますが、それについてはどうですか。

学校教育課長

主には英語の授業での活用ですが、5、6年生の英語については、結構視聴覚の教材が多いので、やはり必要だろうと思えます。主には英語だと申しましたが、今、色々な視聴覚機器がございまして、実物投影機とか、パソコンも全部、このディスプレイに繋げるようになっております。ですから英語だけではなく、汎用的に広く、このディスプレイは活用できるものと考えておりますので、英語だけに限らず、各教科で視聴覚教材、パソコンでの教材、子どもたちの作品を映し出すためのディスプレイとしても十分活用できるというように話をしていきたいと思っております。

中村市長

そのあたりを財政のヒアリングでは、しっかり主張していかないといけないですよ。そこところが谷田委員が言われた部分です。

その他にございませんか。

赤石委員

文化ホール改修事業について、今、市民会館が使用できなくなってしまって、私たち音楽活動を少しさせてもらっているのですが、非常に市民会館が無くて、ピアノの発表会にしたって、私たちのコンサートにしたって、文化ホールが無いと音楽活動が境港では中々難しいという現状です。昨日も一中の合唱の発表会とか、いろんな学校や民間団体も使いますし、非常に利用価値が高いです。今後、交流センターの中にできる音楽ホールが今はない状態で、2年、3年と、文化ホールが唯一の音楽活動の拠点になっています。文化ホールもかなり劣化をしているということで、ぜひ早め早めに手を打っていただいて、音楽活動や文化活動等が、支障が無いように、あれが故障になってしまうと活動そのものが非常に難しくなってしまうということがあると思いますので、ぜひ早め早めの補修をしていただければ非常に喜ぶますので、よろしく願いいたします。

中村市長

この文化ホールの改修は、機械設備が主になるのですか。

生涯学習課長

この2,200万の内訳ですけれども、まず大きいのが制御盤、事務室の中にエアコンとか空調の制御する機械があるのですが、その制御盤の改修で700万、音響機器の改修、ステージ上の音が出るスピーカー的なものの改修で300万、あと受電盤と言いまして、電気の受電する機械、これがメーカーの方に言わすと耐用年数が10年、保守点検業者に言わすと20年と言われていると、大体今20年を超えていますので、これを替えるのに900万、あとピンスポットと言いまして、ステージ上のライトの修繕で60万、非構造部材、釣り天井になっていますので、釣り天井の調査、あとステージ上の揚降するものの非構造部材の調査に300万、トータル2,200万という中身になっています。今、20年を経過していますので、色々耐用年数を超えているものが多いので、そういったものを今年度から年次的に3ヶ年かけてきちっと整備して行って、長く、使用に支障が無いような形で運営していくことを考えて、年次的にやりたいという風に考えております。

中村市長

3ヶ年計画で、初年度に2,200万掛かるということですか。

生涯学習課長

2,200万はあくまで29年度です。28～30年度で大体7,000万くらい全部で掛かります。ただ非構造部材とか釣りものとかの改修

がどうなるかという調査してみないとわからない部分がありますので、それによっては金額が落ちてきます。

中村市長

その他ございませんか。この概算要求以外で、一般的な教育委員会が予算要求すべきものがあれば、ご発言いただきたいと思えます。細かいソフト的な予算についてもこの際、ご意見いただければ予算要求に繋がっていくこととなりますので。特にございませんか。（なし）それでは、今、色々ご意見いただきましたが、意を持ちまして来年度の予算要求に教育委員会、向かうということでございます。よろしく申し上げます。

それでは次に、全国学力・学習状況調査の結果が出たようでありますので、これについて説明してください。

#### ※学校教育課長が資料に基づき説明

中村市長

ただ今、全国学力・学習状況調査の結果について説明がありましたけれども、これについてご意見ございませんか。

赤石委員

「児童質問紙調査から」について、「本市で十分に満足いく結果のもの」があって、その中で「学校に行くのは楽しい」というのが94.6%、これ裏を返せば100人に5人が学校に行くのがつまらない、面白くない、行きたくないと思っており、勉強とかいろいろな理由があると思うのですが、100人のうち5人も居られて、これが何かのきっかけで不登校になったりとか、そういうケースに繋がるのではないかと、これが本当に十分に満足いく数字なのかと思います。もう1つ、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」というところが、98.6%、ということは100人に2人は、今、これだけ騒がれているのにいじめが悪いとあまり思っていない、アンケートを見る限りはですね。中学校についても、95.7%で、100人のうち5人はいじめというのは何か理由があればいいんだとか、そういう風に思っているという事はですね、この間、青森の中学二年生が亡くなったという記事もあって騒がれていますけれども、やっぱり100%、こういう数字は100%でないといけないのかなと思います。実際、詳しく見ると渡小、外江小、誠道小は100%、そういう子どもはいないと、いじめは絶対いけないと、そういう100%の小学校もあるけれども、96%や97%の学校もあって、平

均的には98.6%で非常に高い数字ということで、これには挙がっていると思いますが、やっぱりこういうものは、今騒がれているので、やっぱり100%でないと満足いく回答ではないのかなと思います。むしろ中学校の場合は5人もいらっしやれば、満足のいく結果というよりは課題の方ではないかなと思ったものですから、それについて私たちも考えないといけないと思いました。

中村市長

例えば、県下の状況であるとか、全国の状況はどうですか。中々100%というのはないと思いますが。

学校教育課長

我々が学校現場で見ていた感じからしますと、この98%とか、95%というのは高い数字です。これが90%を切るような状況だったり、そういう学校もございます。そういう意味では、非常に肯定的に捉えているのがかなり多いというように感じることはできます。ただおっしゃるように、これも捉え方の問題で、当然、全員が悪い事は悪いという具合に考えるというのもよくわかるところでございます。ただ段々と中学校で少し5%くらい落ちているのは、どうしても相手に責任を求めてしまう、そういう考えをする生徒もなくはないという側面もあるのかなと思うところもあります。ですがやはりこれは学校側もおそらく95%でよかったなというわけではなくて、それぞれもっと高くなるようにと捉えている部分もあると思うので、全体的に90%以上ということで挙げさせてもらっていますけども、その捉え方は学校としてはまだこれではいけないと思うのは当然だろうなというようには思います。

松本教育長

特にこういった問題を肯定的に受け止められない子どもさんというのは、自尊心がやはり低いといいますか、自分自身を良しとしていないとか、自分の苦しきっていう部分を持っておるケースがあります。したがってそれは単に学校の生活だけではなくて、家庭の生活という部分も係わってきますので、学校と家庭が協力して子どもたちをきちっと認めてやるというような、そういったところからやっていかないと難しい部分があります。色々な生育の段階で、中々自分自身を良しという風に考えない場合は、逆に今度は人に対しても同じように良しとは考えないということになりますので、こういった傾向が出てくるのかな

という風に思っています。境港も自尊感情の低い生徒さんが結構いますので、それは1つのテーマだなと思っています。

谷田委員

この調査結果は非常に詳細に取りまとめが行われていまして、これによって現状がしっかりと把握できると思います。あとはここから具体的な問題点というのが色々と浮き彫りになってきていると思いますので、それに対しての改善策をしっかりと立てて実施をしていくというのが重要だと思っています。分析とそれに対する改善策、その両方が無いと効果が半減してしまうのではないかと思いますので、そこをしっかりと改善策を取って行って、毎年毎年、対前年と比べて少しずつでも本市の学力が向上していくような形に繋げていけたらいいなと思っています。

酒井委員

昨年度策定されました大綱にも、調査の実態を受け止めて、具体的、効果的な学力向上対策を行うということが示されています。今年度より各校の分析結果を市教委が冊子としてまとめられて、各学校に配布されたことや全小中学校がホームページの方に分析結果を公表されたということは、学力向上対策として大きな成果であったと思っています。今後は分析したことをこれで終わらせないで、学校全体で共通理解をして、共通実践をしていくことが大事であると思います。

中村市長

これちょっと気が付いたのですが、中学校で県下の平均はかなり全国を上回っており、今、事務局は全国との比較をしたのですが、県の平均と比較するとドンと下がる。県内他市は随分高いということですね。

学校教育課長

鳥取県は全国レベルでも少し高い県でございます。我々も県と比べて勝負したいという気持ちはございますが、まずは全国を上回ってからということをして1つの目標にしているところでございます。ただ、小学校については、今回、県の平均を全部上回っている学校もございます。そういう学校の取り組みをぜひ、横に連携を取りながら、あるいは学校間の情報を取りながら、どうやってこういう具合に上手く行ったのかということはぜひ検討していきたいと考えております。具体的には、特に小学校は、習う内容を縦で連携して、漏れの無いように学習をしてい

くように校長会でも話をしました。また中学校では、どうしても積み重ねの部分でも難しさというのがありますので、そこもしっかり時間をかけて指導していくようにという話もしております。ぜひ県と比べても遜色の無いような結果が出るようになればと思っているところであります。

松本教育長

私も市内の学校に校長として2年間、勤めておりましたけれども、生徒たちの授業の場面を何回も見ております。本当に真面目に授業に参加します。今までの仕事柄、色んな西部地区の学校を見てまいりましたので、他の地域の中学校と比べても、市内の生徒の授業の受け方というのは非常に真面目というのを感じました。ただ、結果的にこういう風に出るといえるのは何なのかと言うと、非常に授業に依存的な、教えてもらえろという気持ちで子どもたちが授業に参加をしている。授業の場面では解ったというつもりで家に帰りますが、その後いきなり自分でもう1回復習するとか、そういったことが出来ていないから、いざ試験の時になると、それが力として発揮できないという生徒が非常に多いというのは感じております。やはり今、アクティブラーニングというのが提案されておりますが、学習に対して積極的に自分が主人公だという気持ちで、参加をさせるというのが生徒を伸ばす非常に大きなポイントになってくると考えております。伸び率はあります。ですから高校に行ってからグッと伸びる子がたくさんいます。簡単に言うと、すぐ答えが出る問題は得意です。じっくり考える問題になると苦戦してしまうという特徴があります。

中村市長

大学入試もそういった試験問題になってくる。アクティブラーニングが非常に重要になってくる。すでにやっている高校は伸びるということもニュースに出ています。その通りだと思います。復習と積極的に自分から係わっていく、そういったことを大切にしていけないといけないということですね。

学校教育課長

アクティブラーニングの方も、研修で結構行っていますし、各小学校、中学校において対話的とか、協同的などという授業が随分増えています。本当にジッと先生の話聞いて写すという姿は大分減ってきました。これからそれが身になれば、もうちょっとこういうB問題やそういうところにも力が付くのではな

いかと思っておりますが、まだそこは試行錯誤のところも先生方もあるので、それをしっかり身に付けてもらえれば、もうちょっと足腰のしっかりした学力になると感じております。

中村市長

子どもたちが本当に困ってしまうことになりますね。今のうちに一生懸命そういった習慣を付けておかないと。中学、高校、大学といった時に、子どもが本当に困ってしまうということが書いてありました。そういった訓練が成されていないとついて行けない。その辺りもしっかり行ってください。他にございませんか。（なし）それでは、色々ご意見が出ましたが、そういったことを踏まえて学校教育に対応してもらいたいと思います。それではもう1つございまして、校区審議会から中間答申が出ていますので、この内容について説明してください。

※学校教育課長が資料に基づき説明

中村市長

校区審議会については、来年度審議を再開して、来年度何時頃最終答申を審議会から得る予定としているのですか。

学校教育課長

一応、来年度も5回の審議会を5月から始め、9月には最終答申をとという具合に考えているところです。

中村市長

最終答申が出て、その後の日程というのは、それを当然教育委員会に諮ると思いますが、それでこれの方針の最終決定というのは教育委員会になるのか、この場になるのですか。

教委事務局長

教育委員会の方でこの答申を参考にしながら、判断をさせていただくのですが、どうしても施設整備ですとかいろいろな市長部局、市長の執行権限とか当然ございまして、この会には諮らせてもらうということは当然なろうかと思っております。

中村市長

教育委員会としての方向性を検討し、この総合教育会議で協議・調整することが必要です。そして、この総合教育会議で合意した方針の下に、市長部局と教育委員会がそれぞれ所管する事務を執行していくという形を取っていかなければならないと思います。

この中間答申についてはいかがでしょうか。

赤石委員

中間答申ということで、最終答申が出るのが来年の9月以降ということになると、早速でも施設としても非常に雨漏りの問題など施設の老朽化というのが各学校でどんどん出てくるときに、どの程度まで改修していいのか、大元のそれが出ないと改修の程度も応急処置的なものでいいのか、実際一中、三中の建替えになると10年、15年先の話になりますので、早急には老朽化した施設をどう対応すればいいのか、非常に難しい判断になるのではという気がします。

中村市長

私はこう思っています。今、校区審議会が中間答申という形で、来年度再開をする。その間、期間がある。この間の議会でも、そんな猶予が無いのではないかと、早くやって決めないといけないのではないかとという意見が出たらしいのですが、私はですね、審議会はここで中間答申を出されて、来年再開する、それまでの期間というのは広く市民の皆さん、いろいろ議論をしてもらおう、そういった期間でいいと思います。今、赤石さんからお話がありましたけれども、大変な改革になるわけですから、それも2年、3年先に結論を出すということではなくて、来年の内にはしかとした結論を出すわけですから、それが決まってから義務教育施設の整備計画というのをきちっと立てて行けば十分ではないかと、あんまり拙速にしていけば、先が本当にごちゃごちゃなるようになってはいけないと思ったりしています。だから大いに多くの皆さんに色々な意見を出してもらって議論をして、それを踏まえて行かないと学校の施設整備の計画もしかとしたものがない。それを踏まえてからでも遅くないのではないのでしょうか。今すぐ雨漏りしてどうしてという問題はそんなにありませんから。大変な今度の小中一貫校、義務教育学校といった大きな改革に向かうわけですから、これについては本当にたくさんの人の意見を聞いて、理解を求めるという大変な労力、エネルギーがかかる。これにはやっぱり少し時間が当然かかってくると私は思っております。誠道小学校については、今、現実的に本当に少ない子どもになってしまったので、その子どもたちの教育をどうするかという、これは現在のままで行くのか、余子と一緒にするのかなど3つの選択肢があったのですが、これは少しでも早く解消していかないと、子どもたちがそこに置かれているわけですから。教育の専門家でもないですが、あんな少ない人数では本当に子どもたちが将来大人になっ

た時に人間関係だとか、とにかく頑張る力だとか、そういったものが本当につくのだろうか、そういった懸念を私は持っています。もう少し大きい人数の中で、色んな軋轢はあるだろうけれども、その中で育っていくことは大切だと思います。そのためには誠道小学校をどうするかということは早く考えないといけないと思っています。

松本教育長

本当に誠道小学校の問題は早く方針を出していかないといけないことだと思います。保護者の方、子どもたち、一番そういったところを心配している。特に子どもたちは今自分たちの学校がどうなるかということについて、すごく心配をしているし、こういった状況になったことについて寂しい思いをしているのかなという風に思います。かつて私は学校の分離というのを二中時代に、二中と三中が分離したときの生徒の思いというのを直面したのですけれども、三中に行った子どもたちは言葉では言いませんでしたが、やっぱり自分たちは出るという寂しさを持っていました。それが向こうの学校に行って、新しい校舎が出来ましたが、結局、不適應というか、そういった行動にもなってしまったということもあります。それから県下の中では、統合するという動きもあるのですが、この統合するときも、例えば大きい学校と小さい学校で、小さい学校が統合されると、この子どもさんはお客さんになって遠慮するという気持ちが生じます。子どもの気持ちというのは本当に微妙だなというのは感じます。ですから事前にそういったことを周りの大人が知りながら、子どもたちにも自覚させながら、いい学校というのは自分たちも努力しないとイケない、子どもたちがそういう風に意識すれば上手く行くと思いますので、こういった方針が決まれば、きちっと子どもたちにもその主体となるような係わり方をさせてやりたいと思います。

中村市長

やっぱり子どもたちのために何が1番いいか、いろいろと地元からは意見が出ているということは聞いているのですが、小学校が無くなると地区の集事が無くなる、地域が本当に沈滞してしまう、それもその通りあります。だけどそれによって子どもたちが本当に少ない人数でいいのかということとそうでもない。子どもたちのことを第一に考えたらどうかということで、やっぱり考えて行かないといけないと思います。大きな問題ですから。

よろしいですか。いろいろご意見をいただきましてありがとうございました。予算に係わるものについては教育委員会の方でしっかり予算要求すると思いますし、今の中間答申の件につきましては、今しばらく、市民的な議論の推移をみて、あるいは来年の校区審議会の審議の再開、その推移をみて、また委員の皆さん、いろいろご協議をさせていただいて、1つの方向性というものを探っていきたいという具合に思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。